

ビザンツ民衆文学を読むために

橘 孝司

1. 序

四世紀から十五世紀まで千百年間のビザンツ帝国の歴史を通じ、思想や感情を言語によって表現しようとする文学活動は、多少の停滞期があったとはいえ、やむことなく続けられた。そこで用いられる言語と文体は古典時代を模倣した擬古体によるものが圧倒的に多い。六世紀のヨハネス・マララスの年代記やロマノス・メロドスの典礼聖歌のように平易な言語で綴られる場合もあるが、少数派にとどまっている。ところが、ビザンツ史も後半の十二世紀あたりから、より平易な口語体で執筆しようとする試みが少しずつ増え始め、十四～十五世紀になると現代語にかなり近い言語の文学作品が相当数現れて一つの文学ジャンルを成すに至った。それは同時に現代ギリシャ文学の萌芽でもある。このような十二世紀頃から十五世紀（あるいは十七世紀までを含むこともある）の口語体指向の中世ギリシャ文学、すなわちビザンツ民衆文学を読むために必要な情報を以下、簡単に紹介しておきたい。

なお、ビザンツ学の他の部門と異なり、ビザンツ民衆文学について日本語で書かれた文献は多くないため、以下では外国語文献の紹介が中心になる。この点、本特集の趣旨からずれてしまうのだが、読者のご寛恕を請いたい。

2. 文学史

ビザンツ民衆文学に関する概説書のうち、文献学的情報が詳細で、もっとも信頼できるのは、ベックの『ビザンツ民衆文学史』である。

Beck, H. G. (1971). *Geschichte der byzantinischen Volksliteratur*.

München: C.H.Beck.

同じ著者の民衆文学関係論文のいくつかは邦訳されている。

H. G. ベック、渡辺金一訳 (1978) 「十四世紀のギリシア民衆文学立脚地点確定

の一つの試み』『ビザンツ世界の思考構造』岩波書店 pp. 157-195.

H. G. ベック、渡辺金一訳 (1978) 「社会を写し出す鏡としてのビザンツ文学」『思想』12月号 pp. 105-120.

通読できる長さのものとしては、ケンブリッジ中世史シリーズの一巻に収められた次の論文がある。

Dölger, F. (1967). *Byzantine Literature. The Cambridge Medieval History, Vol. IV The Byzantine Empire, Part II, Government, Church and Civilisation.* pp. 206-263 Cambridge UP【民衆文学に関しては pp. 256-263】.

民衆文学をより広義に解して、ビザンツ末期のドゥーカスやスフランジスの年代記、十二世紀の擬古体ロマンスなどを含める場合もあるが、これらについては同じ叢書のフンガーのものが頼りになる。

Hunger, H. (1978). *Die Hochsprachliche profane Literatur der Byzantiner.* 2 Bde. München: C.H.Beck.

ギリシャでよく用いられるものとして、ミツァキス『現代ギリシャ文学入門：早期現代ギリシャ期』やマストロディミトリス『現代ギリシャ語文献学入門』などがある。前者は大学のテキスト用に書かれたものであり、アクリティカ歌謡からコンスタンチノーブル陥落の悲歌までが分かりやすく説明されている。後者は現代ギリシャ文学全般のハンドブックであるが、文学略史やテキストから各国の現代ギリシャ語学の情報まで含んでおり、たいへん役に立つ。

Μητσάκης, K. (1986). *Εισαγωγή στη νέα ελληνική λογοτεχνία. Πρωτο-νεοελληνικοί χρόνοι. Μέρος Πρώτο: Από τα τραγούδια του ακριτικού κύκλου έως τους Θρήνους για το πάριμο της Πόλης.* Αθήνα.

Μαστροδημήτρης, Π.Δ. (1983⁴). *Εισαγωγή στη νεοελληνική φιλολογία.* Αθήνα: Εκδ. Δόμος.

その他「現代ギリシャ文学史」と題する書籍は通常、最初の数章をビザンツ民衆文学にあてているので、簡便に知識を得ることが出来る。次のようなものが代表的であるが、最初のポリティスの英語版が簡潔で入手しやすく、文献情報も豊富である。ビザンツ後期やポスト・ビザンツ期については最後のディマラスとクノスが非常に詳しい。

Πολίτης, Δ. (1985⁴). *Ιστορία της νεοελληνικής λογοτεχνίας.* Αθήνα: Μορφωτικό Ίδρυμα Εθνικής Τραπέζης【英語版: Politis, L. (1973). *A History of Modern Greek Literature.* Oxford: Clarendon Press、独語版: Politis, L. (1996). *Geschichte der neugriechischen Literatur.* Köln: Romiosini】.

Vitti, M. (1978). *Ιστορία της νεοελληνικής λογοτεχνίας*. Εκδ. Οδυσσεάς.
Δημαράς, Κ.Θ. (1987^β). *Ιστορία της νεοελληνικής λογοτεχνίας. Από τις πρώτες
ρίζες ως την εποχή μας*. Ίκαρος.

Knös, B. (1962). *L'histoire de la littérature néo-grecque, la période jusqu' en 1821*.
Göteborg/ Uppsala: Almqvist & Wiksell.

「ディゲニス・アクリティス」や「ベルタンドロスとクリュサンツァ」などの騎士ロマンスに焦点を絞った研究書として以下のものがある。

Beaton, R. (1989). *The Medieval Greek Romance*. Cambridge UP [Cambridge Studies in Medieval Literature 6].

ビザンツ史最後の十五世紀あたりから、ベネチア支配下のクレタ島で文学活動が興隆し始め、十七世紀の劇作家ホルタツィスと騎士ロマンス「エロトクリトス」のコルナロスをもってその頂点に達する。このクレタ文学に関する最上の概説書はイギリスの研究者たちによって書かれている。

Holton, D. (ed.) (1991). *Literature and Society in Renaissance Crete*.
Cambridge UP.

日本語のものでは、関本先生がビザンツ及び現代ギリシャ文学概説の中で、ビザンツ後期の民衆文学やクレタ文学に触れておられる。(前者は『広島大学文学部紀要』7号1955年に、後者は『現代ギリシア短編小説選集』溪水社、1980年に掲載されたもの。)

関本至(1987)「ビザンティン文学序説」『現代ギリシアの言語と文学』
溪水社 pp. 172-95.

関本至(1987)「近代ギリシア文学について」『現代ギリシアの言語と文学』
溪水社 pp. 196-221.

3. テキスト

ビザンツ民衆文学のテキストの出版情報は上掲の Beck (1971) や Μαστροδημήτρης (1983^α)、クレタ文学については Holton (1991) に詳しい。それ以降出版されたものは The Oxford Dictionary of Byzantium、Tusculum Lexikon、後で述べるクリアラス『中世ギリシャ民衆文学辞典』の文献表に挙げられているし、Byzantinische Zeitschrift の文献目録 (1B. Volkssprachliche Literatur) に最新のデータが掲載される。新しい叢書としてよく利用されるのは Neograeca Medii Aevi (Köln: Romiosini) と Μεσαιωνική και Νεοελληνική Βιβλιοθήκη (Αθήνα / Θεσσαλονίκη) である。前者は風刺詩「貧しきプロドロモスの歌」、「驢馬の聖者伝」、

「果物会議」等を含み、後者は「アレクサンドロス物語脚韻版」、クレタ牧歌詩「パノリア」、クレタ喜劇「スタシス」、クレタ詩人マリノス・ファリエロス「恋の夢」、風刺詩「鳥の会議」、「ベリサリオス物語」、「トロヤ戦争」を含む。これら以外にも、レオナルドス・デラポルトス、ジャンネス・ブニヤリス「クレタ戦争」、宗教劇「アブラハムの犠牲」などのクレタ文学の新しい校訂版が最近出版されている。

Μαυούσακας, Μ. (1995). *Λεονάρδου Ντελλαπόρτα Ποιήματα (1403/1411)*.

Ακαδημία Αθηνών.

Αλεξίου, Στ. & Αποσκήτη, Μ. (1995). *Μαρίνου Τζάνε Μπουνιαλή του Ρεθυμναίου Ο Κρητικός Πόλεμος (1645-1669)*. Αθήνα: Στιγμή.

Bakker, W. & van Gemert, A. (eds.) (1996). *Η Θυσία του Αβραάμ*. Ηράκλειο :

Πανεπιστημιακές Εκδόσεις Κρήτης.

民衆文学作品の全体像を手っ取り早くつかむためにはアンソロジーが役立つ。代表的なものに、マストロディミトリスやポリティス編纂のものなどがある。

Μαστροδημήτρης, Π.Δ. (1984). *Η Ποίηση των πρωτοεολληνικών χρόνων*.

Αθήνα: Ίδρυμα Γουλανδρή-Χορν.

Μαστροδημήτρης, Π.Δ. (1984). *Η ποίηση των μεταβυζαντινών χρόνων*.

Αθήνα: Ίδρυμα Γουλανδρή-Χορν.

Πολίτης, Α. (1985/89²). *Ποιητική ανθολογία*. Αθήνα: Δωδώνη.

この最後のポリティスのアンソロジーは全八巻で1930年代の詩人までを扱うが、その第一巻がコンスタンチノーブル陥落前、第二巻が陥落後の十五～十六世紀、第三巻がクレタ文学を含んでいる。

クレタ文学のアンソロジーにはアレクシウのものがある。

Αλεξίου, Στ. (1969²). *Κρητική ανθολογία (ΙΕ' - ΙΖ' αιώνας)*. Κρήτη: Ηράκλειον.

これらのアンソロジーにはいずれも各作品・ジャンルごとの簡潔な概説や語彙集が付されている。また、上掲の Μητσάκης (1986)の付録のアンソロジーも代表的な作品をほとんど含んでいる。

4. 辞書

ビザンツ民衆文学には古代語の語彙と並んで現代語の語彙や中世語独自の語彙がたくさん使われているから、辞書がとても重要になってくる。

古代語の語彙に関しては優れた辞書があるのでそれを用いればよい。リドル & スコットの古代ギリシャ語辞典はもちろんだが、より後の時代を対象とした

次の二冊も非常に重宝である。

Sophocles, E.A. (1914 / rpt.1983). *Greek Lexicon of the Roman and Byzantine Periods*. Harvard UP.

Lampe, G.W.H. (1961). *A Patristic Greek Lexicon*. Oxford: Clarendon Press.

中世語独自の語彙についてもっとも詳細なのはクリアラスの『中世ギリシャ民衆文学辞典』である。

Κριαράς, Ε. (1968-). *Λεξικό της μεσαιωνικής ελληνικής δημόδους γραμματείας (1100-1669)*. Θεσσαλονίκη.

これは英雄詩、風刺詩、騎士ロマンスといった狭義の民衆文学に加えて、ビザンツ末期の年代記、モーセ五書の近代語訳、擬古体歴史書の口語体訳、十二世紀の擬古体ロマンスといったものまで対象としており、引用例も豊富で、語源や研究論文への言及もある。最近第十四巻(πの初めまで)が出版された。その未公開部分の語彙を調べるのには、ディミトラコスの十五巻もの大辞典が役に立つ。

Δημητράκος, Δ., *Μέγα λεξικόν όλης της ελληνικής γλώσσης*. 15 τομ. Εκδ. Δομή Α.Ε. これは表題通り、ホメロスから現代までの全時期をカバーしている。古代語に関してはリドル&スコット辞典などを随分利用しているようだが、中世語の語彙もかなり含んでいる。なお、これには一巻ものの簡約版もある。

Δημητράκος, Δ., *Νέον λεξικόν ορθογραφικόν και ερμηνευτικόν όλης της ελληνικής γλώσσης*. Εκδ. Περγαμηναί.

次のギリシャ・イタリア語辞典はハンディーな一巻本で、タイトル通りイタリア由来の文献が中心だが、同時代の民衆文学に類出する語も多く載せている。

Caracausi, G. (1990). *Lessico greco della Sicilia e dell' Italia meridionale (secoli X-XIV)*. Palermo: Centro di studi filologici e linguistici siciliani [Lessici siciliani 6]

民衆文学に数多く含まれている外来語については、トリアンダフィリディスによる大きな研究があり、実際にテキストを読む際にもたいへん役立つ。

Τριανταφυλλίδης, Μ. (1963). *Die Lehnwörter der mittelgriechischen Vulgärliteratur*.

Άπαντα του Μανόλη Τριανταφυλλίδη. τομ. 1, Θεσσαλονίκη, pp. 299-490.

十七世紀の出版物ながら今でも用いられるのが、シャルル・デュ・カンジュ『中世後期ギリシャ語作家辞典』である。

Du Cange, Ch. (1688). *Glossarium ad scriptores mediae et infimae Graecitatis*. Lyon. (rpt. 1958, Graz).

これは、年代的に先行する Johannes Meursius の「俗ギリシャ語語彙集」(*Glossarium*

graecobarbarum, Lugduni Batavorum, 1614²) からも多くを引用し、Simon Portius の現代語文法 (*Γραμματική της ρωμαϊκής γλώσσας*, 1638) を冒頭に再録している。

このデュ・カンジュと並んで有用なのが十八世紀初頭のダ・ソマヴェラの『俗ギリシャ語イタリア語辞典』である。

Alessio da Somavera (1709). *Θησαυρός της ρωμαϊκής και της φραγκικής γλώσσας. Tesoro della lingua-greca volgare ed italiana*. Paris.

この時期の口語語彙を含むかなり大部な一巻本で、単語以外にイディオムの例も多く挙げています。1977年にポーロニヤで再版が出たらしい。

Trapp, E., Hörandner, W. & Diethalt, J. (1994-). *Lexikon zur byzantinischen Gräzität, des 9. - 12. Jahrhunderts*. Wien: Verlag der österreichischen Akademie der Wissenschaft.

は現在第二巻(δυσ-)までが出ている。民衆文学の発展期以前の九～十二世紀の作品が中心であるが、「アレクサンドロス物語」や十二世紀コムネノス朝の擬古体ロマンス等も資料体に挙がっている。

これらの辞書で見あたらない語彙は現代語辞書に頼ることになる。

Πρωίας, Λεξικόν της νέας ελληνικής γλώσσας ορθογραφικών και ερμηνευτικών. 2 τομ. Αθήνα.

は少々古いですが、特に中世後期以降の語彙を調べるには有用。より新しい現代語辞書としては次のようなものが代表的。(現代語の記述としては最後のクリアラスの辞書とバビニオティスの辞書が大変よくできており、しかも一巻本で使いやすい。)

Υπερλεξικό της νεοελληνικής γλώσσας, 6 τομ. Αθήνα: Εκδ. Παγουλάτοι.

Γεωργιοπαπαδάκος, Α. (1988). *Το μεγάλο λεξικό της νεοελληνικής μονοτονικό*. Αθήνα: Μαλλιάρης Παιδεία.

Τεγόπουλος-Φυτράκης (1995). *Ελληνικό λεξικό*. Αθήνα: Εκδόσεις Αρμονία Α.Ε.

Κριαράς, Ε. (1995). *Νέο ελληνικό λεξικό της σύγχρονης Δημοτικής γλώσσας*. Αθήνα: Εκδοτική Αθηνών

Μπαμπινιώτης, Γ. (1998). *Λεξικό της νέας ελληνικής γλώσσας*. Αθήνα: Κέντρο λεξικολογίας.

現代語の辞書としては最大の

Ιστορικό Λεξικόν την νέας ελληνικής, της τε κοινώς ομιλουμένης και των ιδιωμάτων (1933-). Ακαδημία Αθηνών.

はいまだ5巻(δαχ-)までしか出ていないが、所収語彙・説明ともに詳細で、中

世語の形態にもしばしば言及している。

中世の後期から方言要素を明瞭に示す文学が現れ始めるが、これらを読むには方言辞書があれば便利である。

十五世紀から十七世紀に栄えたクレタ方言文学については、騎士ロマンス「エロトクリトス」の校訂版の巻末に 300 ページ近い詳細なグロッサリーが付されている。

Ξανθουδίδης, Στ. (1973). *Βιτζέντζου Κορνάρου Εωτόκριτος*. Εκδ. Δωρικός.

キプロス方言は十四世紀頃の法典から現れ始めるが、

Σακελλάριος, Α. (1891). *Τα Κυπριακά ήτοι γεωγραφία, ιστορία και γλώσσα της νήσου Κύπρου...*, том. 2.

に所収のグロッサリーがその年代にかかわらず有益である。クリアラス辞典にはない語彙も見られる。

アクリティカ歌謡や近代の説話を豊富に残すポンドス方言では、パパゾプロスのものがもっとも詳細。

Παπαδόπουλος, Α. (1958-1961). *Ιστορικών λεξικών της ποντικής διαλέκτου*. Αθήνα.

5. 文法書

同じビザンツ民衆文学でも、十二世紀の「貧しきプロドロモスの歌」やミカエル・グリュカス「獄中詩」、教訓詩「スパネアス」等には古代語の言語特徴が数多く現れる。これに対し、十四～十五世紀の「モレア年代記」、騎士ロマンス「フローリオスとプラツィア・フローラ」、ボッカチオの「テセウス物語」の翻訳等になると、現代語の文法にかなり近くなる。これらの多様な諸特徴を網羅した中世語の体系的な文法書は未だ存在しない。古代語から現代語までを扱うコンパクトな一巻ものとしてはヤナリスがあり、古いけれども役に立つ。

Jannaris, A. (1897 / rpt. 1987). *An Historical Greek Grammar*. London.

次のものはいくつかのビザンツ年代記を対象とするが、統語論を欠く。

Psaltis, St. (1913 / rpt. 1974). *Grammatik der byzantinischen Chroniken*. Vandenhoeck & Ruprecht.

近代ギリシャの言語学の創始者であるハジダキスはその膨大な研究の中で中世語についても論じている。まとまった本としては次のようなものがあり、索引を利用すれば、個別の問題に当たることが出来る。ただし、体系的な記述文法ではない。

Hatzidakis, G.N. (1892 / rpt. 1977). *Einleitung in die neugriechische Grammatik*.

Leipzig.

Χατζιδάκης, Γ.Ν. (1905/7). *Μεσαιωνικά και νέα Ελληνικά*. том. Α' - Β'.

Αθήνα. [Πελεκάνος 社のリプリント有り].

Χατζιδάκης, Γ.Ν. (1980/77). *Γλωσσολογικάί έρευναι*. том. Α' - Β'. Αθήνα: Ακαδημία Αθηνών.

比較的最近出版されたものとして、記述対象をひとつの民衆文学作品に限定した次の二つがある。

Apostolopoulos, Ph. (1984). *La langue du roman byzantin "Callimaque et Chrysorrhoe"*. Αθήνα: Ακαδημία Αθηνών.

Egea, J. M. (1988). *Gramática de la Crónica de Morea, un estudio sobre el griego medieval*. Vitoria / Gasteiz: Instituto de Ciencias de la Antigüedad, Universidad País Vasco.

前者は騎士ロマンス「カリマコスとクリュソロエ」、後者は「モレア年代記」(ともに十四世紀頃)の言語を扱っている。

このように中世ギリシャ語の体系的な文法書や入門書がない以上、現代語ないし古代語の基礎的な知識を一通り得てから、中世民衆文学の個々の作品を注釈や翻訳を手がかりにして読んでいくのが、最上の方法ということになる。十二世紀の「貧しきプロドロモスの歌」、「ディゲニス・アクリティス」G版、「スパネアス」などを読むためには古代語から入った方が手っ取り早く、十四世紀以降の騎士ロマンス、「モレア年代記」、「トッコ年代記」、「アレクサンドロス物語」「ディゲニス・アクリティス」E版などは、現代語の知識でかなり読むことが出来る。

最近出版されたテキストは詳細な注、語彙集、近代語訳が付いていて、とてもありがたい。例えば「貧しきプロドロモスの歌」には、

Eideneier, H. (1991). *Ptochoprodromos, Einführung, kritische Ausgabe, deutsche Übersetzung, Glossar*. Köln: Romiosini [Neograeca Medii Aevi V].

「ディゲニス・アクリティス」E版には、

Αλεξίου, Στ. (1985). *Βασίλειος Διγενής Ακρίτης (κατά το χειρόγραφο του Εσκοριάλ) και το Άσμα του Αρμούρη. Κριτική Έκδοση, Εισαγωγή, Σημειώσεις, Γλωσσάριο*. Αθήνα: Ερμής.

がよく利用される。なお「ディゲニス」には小型版と平易な英訳本がある。

Αλεξίου, Στ. (1990). *Βασίλειος Διγενής Ακρίτης*. Αθήνα: Ερμής.

Ricks, D. (1990). *Byzantine Heroic Poetry*. Bristol.

6. 文献調査

民衆文学に関する研究論文を探すためには、他のビザンツ学の諸部門同様、*Byzantinische Zeitschrift* のビブリオが最も頼りになる。また、上掲のクリアラス『中世ギリシャ民衆文学辞典』第十三巻(1994)は一冊が丸ごと校訂本、研究論文、雑誌等のビブリオになっている。さらに、上に述べたマストロディミトリス『現代ギリシャ語文献学入門』も文献情報が豊富である。

中世ギリシャ語学関係では次のビブリオが特筆に値する。索引が詳しく、テーマ、単語、方言などからも論文にたどりつけるようになっている。

Apostolopoulos, Ph. (1994). *Inventaire méthodique de linguistique byzantine (gréco médiéval). Essai d'une bibliographie raisonnée des travaux sur la langue byzantine (1880-1975)*. Θεσσαλονίκη: Βάνιας [Εταιρεία Βυζαντινών Ερευνών 14].

次は有名な言語学のビブリオであるが、その「ギリシア語」の部も、最近「ビザンツ・中世ギリシャ語」の項目が独立して立てられるようになった。

Bibliographie linguistique de l'année. Dordrecht, Boston, London: Kluwer Academic Publishers.

日本語によるビザンツ史研究の文献案内としては、
草生久嗣「ビザンツ史研究の道具箱」『クリオ』vol. 10/11(1996/1997) 55-66
[東京大学文学部西洋史学研究室].

が大変便利である。

7. 言語史

ギリシャ語史の概説書は中世語の言語特徴にも触れてあるから、目を通しておくと有益であろう。全時代を簡潔に記述したものとして、

Joseph, B. (1987). *Greek. The World Major Languages* (ed. B. Comrie), pp.410-439. Croom Helm.

コイナー・ギリシャ語から現代語までを要領よくまとめたものとしては、
Browning, R. (1983²). *Medieval and Modern Greek Language*. Cambridge UP.

同じ著者にはビザンツ期に焦点を絞った次の論文もある。

Browning, R. (1978). *The Language of Byzantine Literature. Byz.-Met.* 1, 103-133.
(= *The "Past" in Medieval and Modern Greek Culture*. ed. S. Vryonis, Malibu, 1978).

ギリシャ人の専門家によるものとして、

Μπαμπινιώτης, Γ. (1986). *Συνοπτική ιστορία της ελληνικής γλώσσας*. Αθήνα.

以下のものは、参考文献が詳しい。

Καψωμένος, Σ. Ι. (1985). Η ελληνική γλώσσα από τα ελληνιστικά ως τα νεώτερα χρόνια. Από την ιστορία της ελληνικής γλώσσας. pp. 1-91. Θεσσαλονίκη: Ινστιτούτο νεοελληνικών σπουδών. (= Kapsomenos, S.G. (1958). Die griechische Sprache zwischen Koine und Neugriechisch. *Berichte zum XI internat. Byz.-Kongr., München*).

Ανδριώτης, Ν. Π. (1995). *Ιστορία της ελληνικής γλώσσας*. Θεσσαλονίκη: Ινστιτούτο νεοελληνικών σπουδών.

8. 学会

ビザンツ民衆文学に関連するテーマの研究発表は、ビザンツ学や現代ギリシャ語学文学の学会で行われているようであるが、全体のテーマとしてこれを掲げた学会がケルン、ベネチア、バスクなどで開かれており、その学会議事録も入手可能である。

Eideneier, H. (ed.) (1987). *Neograeca Medii Aevi : Text und Ausgabe*. (Akten zum Symposium Köln 1986). Köln: Romiosini [Neograeca Medii Aevi I].

Παναγιωτάκης, Ν.Μ. (ed.) (1993). *Αρχές της νεοελληνικής λογοτεχνίας* (Πρακτικά του δευτέρου διεθνούς συνεδρίου «Neograeca Medii Aevi», Βενετία, 7-10 Νοεμβρίου 1991), 2 τομ. Βενετία: Ελληνικό Ινστιτούτο Βυζαντινών και Μεταβυζαντινών Σπουδών της Βενετίας.

また、「ディゲニス・アクリタス」をテーマとするシンポジウムが1992年ロンドンで開かれ、その成果も出版されている。

Beaton, R. & Ricks, D. (eds.) (1993). *Digenes Akrites: New Approaches to Byzantine Heroic Poetry*. Variorum.

【以上の書籍のうち、ギリシャで出たものはヘルソネス書房 (〒331-0042 大宮市奈良町 136-2-203, TEL & FAX 048-651-1747, E-MAIL cherson@olive.ocn.ne.jp)、Zeno (6 Denmark Street, London WC2H 8LP, TEL & FAX 0171-836 2522, E-MAIL L4Books@aol.com), ΔΩΔΩΝΗ (Ασκληπιού 3, 106 79 Αθήνα, TEL 3637973, FAX 3630312) などで購入できる。キプロスで出版された古いもの(サケラリオス「キプリアカ」やマヘラスの年代記など)は、キプロスの書店 MAM (P.O.Box 1722 Nicosia CYPRUS, TELEFAX 00357-2-465411) でリプリント版を販売している。】